

創刊のご挨拶

こんにちは、千代田園芸社の石倉です。
ご無沙汰しております。突然ですが、庭師として庭造りの楽しさをもっと伝えたいと思い立ち、新聞を発行することに致しました。
ご意見など頂ければ幸いです。

お客様紹介

こんにちは、大山田団地の袴田です。
千代田園芸さんと知り合ったきっかけは忘れてしまったけどー
多分探検している時偶然こんなところに造園業者があるとふっと立ち寄ったんだと思う。
庭を造りたいと思っていると話したら、とにかく一本素敵な木を探し植えることからじっくり創っていこうといわれ、びっくりした。
どこでも早く造り金儲けしようとするじゃない？
「一度植えたら一生付き合うことになる可能性が高いし、毎日顔をあわせることになるので、できるだけ気に入った子を探しましょう。」といわれたその言葉がすっかり気に入ってしまい全面的に信頼しました。それから18年くらいの付き合いで、今も進行形の庭です

最初、今から思うと恥ずかしいけど、狭い庭なのに林や森の中にいるようで、風が吹き渡るような庭にしたいとお願いしました。ずうずうしいけどー

けれどその夢をかなえてもらいました。私は植物が大好きで、一種の病気だと言っても良いぐらいです。その私にずっと付き合ってもらっていま

す。母の介護、自分の体調、いろいろ落ち込むことも多い大変ないろいろあった18年でしたが、どれほど庭が、木々が草花が癒してくれ、勇気をくれたか。また夫婦仲良くいけるのも二人とも植物が好きであったことも大きいです。

それとひとつ最初に会った時の話で、「冬に枯葉の付いたままの落葉樹があって、きたないと嫌われているけど、その葉が冬の風でかさこそ立てる音を楽しむ人がいる」という話をきいてひどく感動したことを覚えている。

物事の見方をおそわった気がした。それから時々思い出している。庭にいとまったく見知らぬ人からも声をかけられるし、近所のご主人から毎朝通勤の時楽しみにしていると言われたり、うれしい。できれば、年をとったら、庭に切り株の椅子でも置いて、花好きな年寄りが集まってたわいも無いことを話せる場所にしたい。

以上が袴田様のお話です。気恥ずかしいです。本当に長いおつきあいで、大まかな植栽は私どもでいたしましたが、それからは奥様とご主人がこつこつと庭をいつくしみ充実させてこられた。まだまだ完成では一とおしゃり、夢は尽きないようです。できる限りのお手伝いをさせていただきます。あまりのお褒めの言葉に何か不満、欠点をと申し上げたところ一度にぱっと創りたい方にはじれったいかもねーとのこと。



インタビューに快く応じて頂いた袴田さんです。

いえいえぱっと創りたい方にはご要望に答えぱっと創らせていただきます。しかし、一生付き合うつもりで慎重に考えるアドバイスはやめません。

社員紹介の1回目は代表の私からです。

わたしは、植木生産、造園を家業とする家の4代目として生まれました。しかし、家業を継ぐ気などまったくありませんでした。好きな絵を勉強して、画家になりたい。できれば東京の美術学校に入り親から離れ自由を満喫したいと思ってましたが、見事失敗地元の大学に入ることになりました。親は東京受験失敗をととても喜んで、とほほでした。大学を卒業する頃には残念ながら自分には才能が無いと思い知らされ、何をこれからしたらいいかわからなくなっていました。その頃母が倒れ半身付随になり卒業と同時に看護をすることになりました。これで逃げ出すタイミングを失ってしまいました。

ただ看護だけの毎日でしたので、何か新しいことを勉強したいと、

父に「何か庭のことでも勉強してみようかな。」と言うと喜んですぐに先生を探してきました。「〇〇さんとこの若い衆が設計の勉強に行っとるで一緒にたのんだって」

何で庭の勉強と言い出したかも忘れるくらいの動機でしたが、成り行きで週に2回夜庭の設計の勉強の為先生のお宅伺いすることにしました。その先生との出会いが造園の仕事をしたいと本気で思うきっかけとなりました。

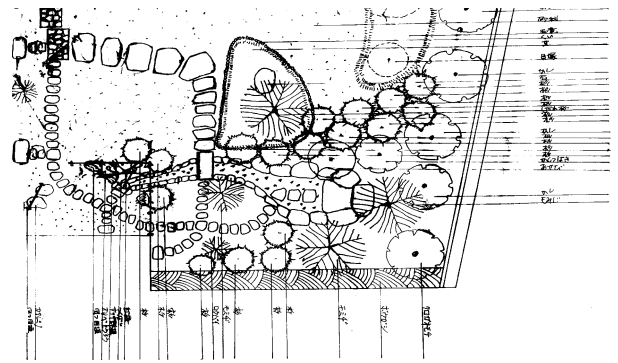
今から思っても無謀ですが、樹種はもみじと松、梅、桜くらいしか知りませんでした。しばらく図面を書きながらノムラがモミジの種類とも知らず、同じに勉強してる仲間から「そんなことも知らんのか信じられん」とあきれられてました。

でも先生は「今まで絵画の勉強をしたことは他

のだれとも違う庭ができるはず。女ならなおさらいままでの勉強を生かし、その特性を磨いたらきっと良い庭ができる。」といて岐阜の関に有る病院の中庭の写真を見せてくれました。

陶板だけでできている超現代アートのような庭にびっくりしました。そしてとても感動しました。「こんなも有りか。何だってできるなあ。やってみたい。」と思いました。それから本気で勉強しようと先生の所へ通いました。

けど、先生は私の顔を見ると抽象絵画の話ばかりで、「抽象で無いと絵じゃない」と独特の絵画論を唱え、「庭についてもっとやることあるジャン」



こんな図面を書きます

あせる私に先生は、「いい音楽を聞き、いい本を読み、おいしいものを食べ、いい芝居や絵をみて、いい人としゃべる。そんなことが早道だ。」と言って美術談義で時間をすごしていました。

今から思うと先生の言ってくれたことは当たっていたし、私も夢を持ったいい時代だったと思います。

あれから随分たってしまいました。それどころかあの頃の夢は忘れてました。もうちょっとやれることあったなーと反省のこのごろです。



千代田園芸社の石倉です。